

「日本語教育通信」は、海外の日本語教師を主な対象として、教材情報、授業のアイデア、日本事情や内外日本語教育情報等を提供するニュースレターです。2009年5月より、印刷物としての発行にかわり、ウェブサイトで公開しています。毎月末頃に、いずれかのコーナーの記事が更新されます。どうぞお役立てください！

目次



日本語教育ニュース

2013年5月、2013年9月

第18回

ウェブサイト「まるごと+ (まるごとプラス)」がオープンしました！

第19回

JF 日本語教育スタンダード準拠コースブック 『まるごと 日本のことばと文化』入門 (A1) を出版しました！



授業のヒント

2013年8月

“ドキドキ”体験・交流活動を通じて日本語を学ぶ



文法を楽しむ

2013年7月

「よう」(1)



本ばこ

2013年4月～2013年9月

『WEEKLY』日本語で話す6週間

『中上級学習者向け日本語教材 日本文化を読む』

『日本語を味わう名詩入門』

『論文作成のための文章力向上プログラム』

『漢字たまで 初中級』

『まるごと日本のことばと文化入門 A1 <かつどう><りかい>』

On the Web

以下の記事はウェブサイトのみにてご覧になれます。



日本語・日本語教育を研究する

2013年6月

第42回

日本語教育再考：規範文法と記述文法の接点から見えるもの

サンフランシスコ州立大学 教授 / 国立国語研究所 客員教授
南 雅彦



海外日本語教育レポート

2013年4月

第27回

J-GAP 韓国の発足と現在までの取り組み - モデル校の釜山外国語大学を一例として -

J-GAP 韓国委員会

鄭 起永 (釜山外国語大学) 検校 裕朗 (極東大学)

鄭 半ヨン (釜山外国語大学) 松浦 恵子 (釜山外国語大学)

奈須 吉彦 (釜山外国語大学) 松浦 恵子 (釜山外国語大学)

『日本語教育通信』

編集：独立行政法人 国際交流基金

〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和 5-6-36 国際交流基金日本語国際センター

TEL: +81-48-834-1183 FAX: +81-48-831-7846

E-mail: jfnct@jpff.go.jp

印刷して保存するときにこの表紙をお使いください。



日本語教育ニュース

にほんご きょういく

ウェブサイト「まるごと+ (まるごとプラス)」がオープンしました!

国際交流基金関西国際センター
教育事業チーム eラーニング開発班

日本語の授業を受けた後で、「会話をもう一度ゆっくり練習したい」とか、「だれかと実際にやりとりがしてみたい」と思ったことはありませんか。そんな練習ができるウェブサイト「まるごと+ (まるごとプラス)」(<http://www.marugotoweb.jp/>)が、2013年2月28日にオープンしました。

今回は、この「まるごと+」の特徴やコンテンツについて紹介したいと思います。



「まるごと+」のトップページ

●「まるごと+」の特徴

国際交流基金では、「相互理解のための日本語」という理念のもと、「JF日本語教育スタンダード」(<http://jfstandard.jp/>)と、これに基づく日本語教科書『まるごと 日本のことばと文化』(以下『まるごと』)を開発しました(『まるごと』については、詳しくはこちら(<http://jfstandard.jp/language/ja/render.do>)をご覧ください)。この『まるごと』の「入門(A1)」で学ぶ人たちの学習をサポートすることを目的に作られたウェブサイトが、「まるごと+」です。

『まるごと』の教科書を使った授業でした会話を、動画を見ながら自分が登場人物になったつもりで試したり、『まるごと』に出てきたことばをイラストや音声で確認したり、紹介されている日本の生活や文化について動画を見たりなど、ウェブの特徴を生かした学習ができるように工夫されています。

このウェブサイトでは、自分のニーズに合わせて練習を選び、利用できるようになっています。例えば、トップページの上にある「やってみよう Communication Activities」のコーナーに並んでいるトピックを選ぶと、そのトピックの学習目標になっている課題遂行のための練習ができます。日本人のふだんの生活を動画で見たいときは、その下にある「せいかつとぶんか」を開いてみてください。

文字を読んだり覚えたり、ことばを確認したり、何度も繰り返し練習したい場合は、トレーニングのコーナーにある「ひらがな」や「かんじ」、「ごい」が役に立ちます。日本語の特徴について簡単に知りたいときは、トップページ左下にある「イントロダクション」がお勧めです。みなさんが試してみたいのは、どのコンテンツでしょうか。

ボタンや使い方などのサイトの表示は日本語、英語、スペイン語で読むことができます。学習対象の日本語部分については、かな、漢字とかな、ローマ字の表示が選べます。

では、それぞれのコンテンツについて、もう少し詳しく見ていきましょう。

●やってみよう Communication Activities

『まるごと』「入門（A1）かつどう」には、「たべもの」「かいもの」など9つのトピックと、関連する50の学習目標「Can-do（日本語でどんなコミュニケーションができるようになるのか）」があります。ここでは、「Can-do」に対応した課題遂行のためのコーナーです。トピックと「Can-do」を選ぶと、「かくにん」「れんしゅう」「チャレンジ」のボタンが表示されます。

「れんしゅう」には「はなす・やりとり」「よむ」「かく」の3種類があり、動画や写真を見ながら、「Can-do」達成のための練習ができます。「チャレンジ」は「Can-do」を使う場面の受け答えなど、日本語でのコミュニケーションの疑似体験ができます。「かくにん」は、「れんしゅう」や「チャレンジ」で使う語彙や表現を確認したいときに見ると役立つ情報です。



「れんしゅう」のページ

「はなす・やりとり」なら、次のような順番で使ってみてはどうでしょうか。

- (1) 「れんしゅう」の会話を聞いてみましょう。何度も聞いてください。
- (2) 知らないことばやわかりにくい表現があったら、「かくにん」を見てみてください。課題を達成するための、基本的な表現や語彙が紹介されています。
- (3) もう一度「れんしゅう」に戻り、今度はAやBの役になって、スクリプト表示を消したりしながら、自分で話す練習をしてみてください。
- (4) 次は「チャレンジ」です。動画の中の人があなたに向かって話しかけてきますから、やりとりが上手くできるかどうか、試してみてください。

もう1つ、「ドラマでチャレンジ」というコンテンツがあります。ここでは、トピックごとにストーリー仕立てで「チャレンジ」が体験できます。日本に来ている「あなた」に登場人物が話しかけてきます。日本でタクシーに乗ったり、買い物したりする疑似体験ができます。流れの中でうまく対応できるかどうか、チャレンジしてみてください。



「ドラマでチャレンジ」

●せいかつとぶんか Life and Culture

このコンテンツでは、「ファーストフードのみせ」「にほんのおみやげ」など『まるごと』の9つのテーマに沿った動画や情報を見ることができます。動画を通して実際の日本や日本人を見て理解を深めると同時に、自分たちの生活や他国の文化との共通点や相違点に気付くきっかけとなることを目的としています。

動画は全部で23本あり、1本あたり1～3分程度です。レポーターがいろいろな場所を訪問したり、いろいろな人にインタビュー

したりします。

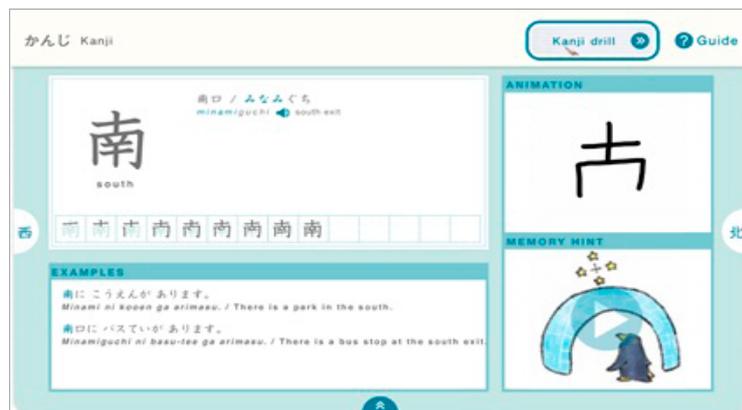
「もっと知りたい」では、動画で紹介できなかったおもしろそうなミニ情報を集めました。また、もっと詳しいことが知りたい人のためにリンク情報も用意してあります。



「せいかつとぶんか」

●トレーニング

「ひらがな」「カタカナ」「かんじ」では、書き方や音声、語彙などを写真やアニメーションを使って紹介しています。「かんじ」には、アニメーションで漢字についてのストーリーを紹介する、「覚えるためのヒント」があります。



「かんじ」

「ごい」では、イラストの中に描き込まれている語彙をクリックすることで、音声や意味が確認できます。「タイピング」では、コンピュータで日本語を入力する方法が紹介されています。

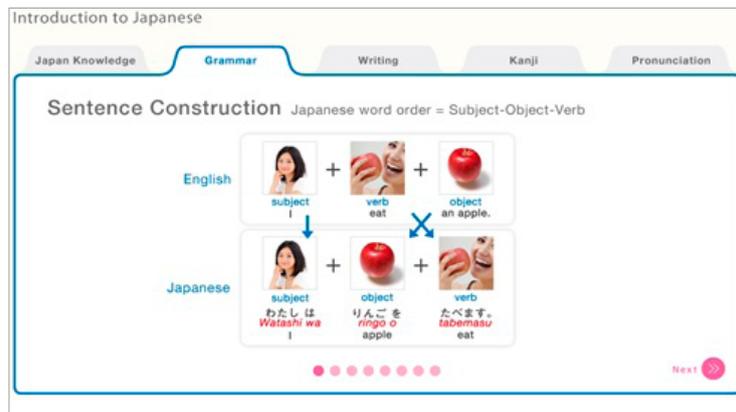
トレーニングのすべてのコンテンツには、練習問題が用意されています。



「ごい」

●イントロダクション

初めて日本語を学ぶ人たちを対象にした、日本や日本語についての基本的な情報を紹介するコーナーです。「Japan Knowledge (12の数字から知る日本)」「Grammar (文法)」「Writing (表記)」「Kanji (漢字)」「Pronunciation (発音)」の5つがあり、イラストや写真をたくさん使い、音声で聞けたり、クイズ形式になっていたり、リラクセスしてそれぞれのアウトラインが理解できるようになっています。



「イントロダクション」

●サブコンテンツ

4つのコーナー以外にも、トップページの右上には、日本の日付と時間、曜日を表示しています。また、左上にある2つのアイコンは、「わたしの好きなこと」と「はなことば」というコンテンツです。「わたしの好きなこと」は、いろいろな日本人が、自分の好きなこと、好きな食べ物、好きなアニメ・マンガ作品、好きな漢字を紹介してくれています。知らないもの、興味があるものがあれば、インターネットで検索してみてください。

「はなことば」は、いろいろな花の花ことばが、書道風に表示されます。好きなことばに出会ったら、実際に筆を使って書いてみるのはいかがでしょうか。



「はなことば」

●「まるごと+」の今後

今後は、文法の練習ができるコンテンツを追加する計画です。さらに「初級1 (A2)」のウェブサイトの開発も予定しています。また、教科書『まるごと』に出てくる語彙や表現について、意味や例文を調べたり、トピックや品詞で絞って語彙リストを作ったりできるウェブサイト「まるごとのことば」も近く公開の予定です。

お問い合わせはこちら (<https://www.marugotoweb.jp/contact.php>) からお願いします。みなさまからの使っていたいただいた感想や、ご意見、お待ちしております。



日本語教育ニュース

にほんご きょういく

JF 日本語教育スタンダード準拠コースブック

にほんご きょういく じゆんきよ

『まるごと 日本のことばと文化』入門 (A1) を出版しました!

にほん ぶんか にゆうもん しゆうほん

日本語国際センター 事業化開発チーム
にほんごこくさい じぎょうか かいぱつちーム

2013年9月、国際交流基金は『まるごと 日本のことばと文化』入門 (A1) を出版しました。これは、国際交流基金が2010年に発表した「JF 日本語教育スタンダード」に準拠した日本語コースブックです。

『まるごと日本のことばと文化』という題名には、リアルなコミュニケーションを「まるごと」、日本人のありのままの生活や文化を「まるごと」、ことばと文化を別々ではなく「まるごと」学ぶことができるように、という思いが込められています。

ここでは、これら3つの「まるごと」がぎっしりと詰まった本書について紹介します。

● JF 日本語教育スタンダード準拠コースブック

にほんご きょういく じゆんきよ

JF 日本語教育スタンダード (以下、JF スタンダード) は、ヨーロッパの言語教育の基盤であるCEFR[※]の考え方に基づいて国際交流基金が開発した、日本語の教え方、学び方、学習成果の評価の仕方を考えるためのツールです。日本語を使ってどんなことができるかという「課題遂行能力」の向上と、さまざまな文化に触れることで視野を広げ、いかに他者の文化を理解し尊重するかという「異文化理解能力」の育成を目指しています。

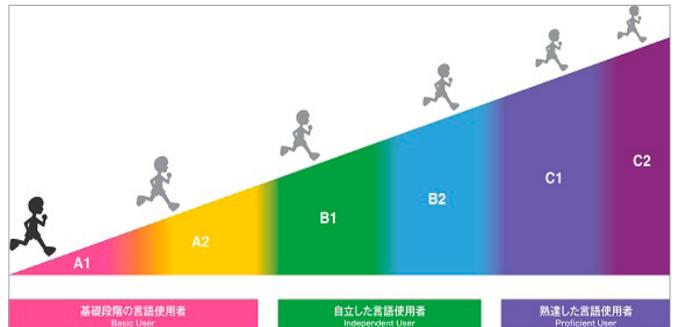
『まるごと 日本のことばと文化』シリーズは、このJF スタンダードの考え方をかたちにした日本語教材です。

にほん ぶんか かんが かに した にほんご きょういくざい

・「課題遂行能力」=日本語でできること

か だいいすいこうのうりよく にほんご

JF スタンダードでは、課題遂行能力について、「A1」から「C2」までの6レベルの日本語の熟達度で説明しています。各レベルでは「日本語で何がどのくらいできるのか」について、「～することができる」という文(「Can-do」)によって示しています。たとえば、「社交的なやりとりをする」という言語活動であれば、各レベルについて次のような「Can-do」があります。



- A1: 友人や近所の人と、時間帯に合った基本的な挨拶を交わすことができる。
- A2: 友人の家で、友人の家族などと基本的な挨拶をし、自分の近況などについて、短い簡単な言葉で話すことができる。
- B1: 友人の家で、友人の家族などと、自分の近況などについて、自分の気持ちもまじえて話すことができる。
- B2: 友人や同僚と、人間関係や仕事などについての愚痴や不満、満足していることなどを、自分にとって重要な点を強調しながら話すことができる。

(JFCan-doより)

・「異文化理解能力」=異文化を学び、自文化をふりかえる

いぶんか かりかいのうりよく いぶんか まな じぶんか

JF スタンダードでは、国際相互理解を深めるためには、言葉だけでなく文化もあわせて学ぶことが重要としています。異文化に親しむだけでなく、自文化をふりかえる視点を養うことも目指しています。

『まるごと 日本のことばと文化』では、各トピックで多様な文化背景を持つ人々が日本語で交流する場面を設定しています。それぞれの場面で話される自然な会話をたくさん聞くこと、写真やイラストを見ることを通して、日本文化のさまざまな側面をそのまま身近に感じとれるように考えました。

みちか かん かんが

●『まるごと 日本のことばと文化』の特徴

・「入門 (A1)」とは

今回、出版した『まるごと 日本のことばと文化』入門 (A1) は、このJFスタンダードで示す6段階のなかの最初のレベルを学ぶためのものです。全18課で、9つのトピックがあり、1課あたり90~120分で学習できるように考えてあります。

・写真やイラスト満載、全ページフルカラー

見て楽しい、学んでさらに楽しい教材となるように、全ページフルカラーで、写真やイラストを豊富に掲載しています。学習者が日本にいても、日本や日本文化を感じられるようになっていきます。



かつどう 第16課「これ、ください」



りかい 第16課「これ、ください」

・「かつどう」と「りかい」

本書は「かつどう」と「りかい」の2つの主教材があります。



「かつどう」では、聞いて話す、読んで書くという「活動」に焦点を当てた学習をします。一方、「りかい」では、文字や文法など言語項目の「理解」に焦点を当てた学習をします。「かつどう」と「りかい」を組み合わせて学習することも、それぞれを単独で学習することも可能です。

・公式ホームページ

本書に関する情報は、こちらの公式ホームページ (<http://marugoto.org/>) で発信していきます。教師用リソース、音声教材も無料で利用することができます(一部、ユーザー登録が必要。ただし登録は無料)。
出版元である株式会社三修社への注文や販売情報なども含めた、関連サイトへのリンクもあります。ぜひご覧ください。



本書の詳細は、「本ぼこ」(2013年9月30日更新)でも紹介しています。

●購入方法

日本国内: 日本語教材を扱う書店、各オンライン書店よりお買い求めいただけます。
日本国外: 各オンライン書店、日系書店(紀伊國屋書店、丸善書店など)でお買い求めいただけます。

● 『まるごと 日本のことばと文化』 を用いた「JF 講座」

国際交流基金では、海外拠点等で実施している「JF 講座」(<http://www.jpff.go.jp/j/japanese/jf/index.html>)において、本書をコースブックとして使用しています。これまで本書の本書試用版で授業を行っていた各国・地域のJF 講座講師からは「音声のインプットが多いので、以前の教科書で指導していた時よりも発音がよくなった」、「聴解活動が豊富なので、聴解能力が伸びた」、「入門の始めから文脈のある自然な会話を聞かせるので、文脈から推測することが上手になる」、「写真やイラストが豊富。取り上げているテーマが日本文化に関わることなので興味を持って学習に取り組める」、「ペアやグループによる活動が多いのでクラスの雰囲気よくなった」といった感想がありました。本書をコースブックとしたJF 講座に大きな期待が寄せられています。



ウズベキスタン日本人材開発センターでの授業



バンコク日本文化センターでの授業



サンパウロ日本文化センターでの授業

『まるごと 日本のことばと文化』 についてのお問い合わせはこちら (marugoto@jpf.go.jp) までお願いします。

※ CEFRとは「Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment」の略称。CEFRはヨーロッパの言語教育・学習の場で共有される枠組みで、2001年に発表されて以来、ヨーロッパのみならず世界の各言語で利用されている。



授業のヒント

じゅぎょう

テーマ

“ドキドキ”体験・交流活動を通じて日本語を学ぶ

目的 もくてき
日本語でのコミュニケーションの楽しさを 感じ、「日本語でできた」という自信をつける
学習者のタイプ がくしゅうしや
初級後半～
クラスの人数 にんずう
40人

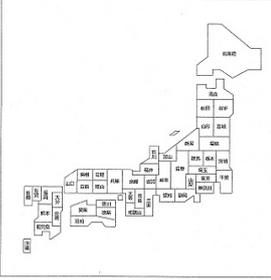
【教室で準備する】

インタビューシート

- 名前（ニックネーム） _____ さん
- に _____ 住んでいる / 住んでいない（旅行など）
- ふるさと
_____（都・道・府・県）
_____ 市
- ふるさとで一番有名な
所（観光地）

- ふるさとの名物料理

- ふるさとのことば（方言）
_____（意味：_____）
- ふるさとのいいところ



◆体験・交流活動を通じて

日本語を総合的に学ぶ

関西国際センター発行の『日本語ドキドキ体験交流活動集』（以下、『ドキドキ』）は、日本人との交流や体験を通して総合的な日本語学習ができるようデザインされていることが特徴です。海外では日本語を使う機会がないという声がありますが、「日本語でできた！」という実感は学習のモチベーションを高める上で大切なもの。日本であれ海外であれ、アイデア次第で日本人と交流したり体験したりすることは可能です。海外でのそのような実践例の1つが、日本人に出身地について聞く「ふるさとインタビュー」活動です。観光地で日本人に声をかける、日本と関係がある機関を訪問する、日本人にゲストとして教室に来てもらうなどのバリエーションがあります（西野 2012）が、今回はどの現場でも実践しやすい、日本人ゲストを教室に招くタイプをご紹介します。

◆準備→活動→まとめの3つのステップ

この活動には3つのステップがあります。

教室で準備する	必要な日本語表現と行動のストラテジーを身につける	1.タスクの説明 2.地理ガイド 3.語彙・場面会話
体験・交流する	現実場面でタスクを遂行するために日本語を使う	ゲストとして招いた日本人にインタビュー
教室でまとめる	見聞きし体験したことを日本語で表現してまとめる	1.ペアで報告 2.グループ発表 3.報告の作文

1. タスクの説明（15分）

まず、タスクシートを配り、目的と流れを説明します。タスクは、①名前（またはニックネーム）、②ふるさと、③ふるさとの有名なところ（観光地）、④ふるさとの名物料理、⑤ふるさとのことば（方言）と意味、⑥ふるさとのいいところについて日本人から情報を得ることです。日本人と一緒に写真を撮るなどのタスクを加えることもできます。

2. 「日本の地理」ガイド（30分）

インタビューの前に、日本の地理や気候について基本的なことを学びます。例えば、都道府県の数や名前、山や海、川などバラエティ豊かな地形、日本の季節の特徴などについて写真を交えて紹介します（『ドキドキ』Nipponガイド「日本の地理」も利用できます）。このガイドを通じて、学習者は「インタビューする人のふるさとはどんなところだろう」というワクワクした気持ちになります。

3. 語彙・場面会話の練習（45分）

インタビューに必要な語彙や会話を練習します（『ドキドキ』内、「インタビューの練習をする」（p54-55）も利用できます）。練習ができれば、日本人の話が聞き取りにくい時はどう言うかなど確認しておくことで学習者の不安も和らぎます。

準備 インタビューの練習をする
Interview practice

① 話しかけて自己紹介する Speaking to someone and introducing yourself

すみません、ちょっといいですか。
Excuse me. May I ask you something?

あ、こちらの男ですか。
Do you work here?

わたしは、タイから来ました。
タイ料理を勉強しています。
ちょっとインタビューしてもいいですか。
I came from Thailand. I am studying
Thai-style language.
May I have an interview with you?

② 有名な所、食べ物について聞く Asking about a famous place and food

ええと、じゃあ、まずここで一番有名な所はどこですか。
First, where is the most famous place here?

いいですね、じゃあ、お昼ご飯は何がおいしいですか。
That sounds good. Well then, what dish do you recommend?

ええ、どんな料理ですか。
What is Japanese?

じゃ、食べてみます。
Oh! I must try that.

③ 方言を聴いてもらう Asking about dialect

じゃあ、次に方言を一つ聴いてください。
Surely, please give me an example of your own dialect.

どういう意味ですか。
What does it mean?

へえ、おもしろいですね。
Oh, it is so.

④ 美の好きな所を聞く Asking about the good point of the town

あの、じゃあ、最後にこの町のいい所はどこですか。
Lastly, what is the good point of your town?

⑤ インタビューを終わる All information desk

そうですか、ありがとうございました。
どうもありがとうございました。
ええ、ありがとうございます。
Thank you very much for your cooperation. It was a lot of fun.

う方言があります。これは「はい」という意味です。最後に、あきたけんのいいところを聞きました。緑が多いし、水もきれいだし、めずらしい植物や動物がたくさんいることです。インタビューはとてもいい体験でした。〇〇さんはゆっくりせつめいしてくれました。

添削を通じて、教師は一人ひとりの日本語のレベルに合わせた適切な日本語を指導します。

◆体験・交流活動を取り入れるメリット

この活動はどのレベルの人も「楽しい」のが特徴です。インタビューは主に事実について聞くものなので初級でも取り入れやすく、上級の場合は、教科書にない生の情報を詳しく得られることが多いです。学習している日本語を使い、交流相手を通じて日本について新しいことを知った喜びは、日本語でのコミュニケーションがもたらす楽しさの1つです。また、この活動は1人でもグループでもできますが、グループの場合は会話を始める度胸がある人、コンピューター操作が得意な人など、いろんな人が自分の強みを生かして活躍し、タスクを遂行できます。これは活動型のいいところですよ。

◆あるものを活用してやってみよう

教師にとって、忙しい毎日の中でゼロから活動をデザインし、教材を作るのは大変です。関西国際センターが運営しているウェブサイト「KCクリップ」(<http://jfk.jp/clip/>)では、今回ご紹介したような『ドキドキ』のバリエーション教材(<http://www.jfk.jp/clip/activity/fieldtrip.html>)や発表スライド用のひな形(<http://jfk.jp/clip/activity/fieldtrip.html>)、実践報告(<http://www.jfk.jp/clip/activity/related.html>)などが多数紹介されていて、誰でもダウンロードして使うことができます。すでにあるものを活用して楽しい時間をデザインしてみませんか。

参考資料

国際交流基金関西国際センター (2008) 『日本語ドキドキ体験交流活動集』 (凡人社)

西野藍・川嶋恵子 (2010) 「国際交流基金レポート12 体験交流活動を通じた学習のデザイン」 『日本語学』 Vol.29, No.13, pp98~107, 明治書院

西野藍 (2012) 「タイにおける「体験交流活動型日本語学習」の実践と教師支援」 『国際交流基金バンコク日本語化センター紀要』 第9号, pp99~108

【体験・交流活動】 (30分~1時間)

準備ができればよいインタビュー活動です。日本人1人につき学習者5~6人のグループにするとバランスがいいです。活動の間、教師は少し離れて見守ります。学習者が自分たちの力でタスクが達成できたという実感を得ることが大切だからです。

【教室でまとめる】

1. 別グループの人に口頭で報告 (20分)
インタビューが終わったら、別グループの人とペアになって結果を報告します(『ドキドキ』内「インタビューの結果を発表する」(p58)とWorksheet (p60) も利用できます)。
2. 発表準備 (50分) とグループ発表 (50分)
グループごとに結果を発表する準備をします。発表の内容を決めて、原稿を書いたり、インターネットの画像や写真を取り込んだスライドを補助資料として作成したりします。スライドは、教師がひな形を作っておき、そこに文字や写真を入れ込むだけにすると、短時間で完成できます。準備ができたならクラス内で発表です。視覚資料があるので聞いている側の興味が増し、質疑応答も活発になります。
3. 体験報告の作文 (宿題)
最後に個人で体験報告の作文を書きます。これは、その一例です。

私たちは〇〇さんにインタビューしました。〇〇さんのふるさはあきたけんです。あきたけんで有名な所について聞きました。一番有名な所はたざわこ(みずうみ)です。また、あきたけんの名物料理は「きりたんぼなべ」と言う料理です。きりたんぼは、米から作られます。作り方はきりたんぼと野菜や肉をなべに入れて、おしょうゆあじにします。それから方言について聞きました。あきたけんに「んだ」と言

このコーナーの担当者：西野 藍 (関西国際センター日本語教育専門員)

読者のみなさんからのアイデア、成功例、失敗例などぜひお寄せください。



は が ほど くらい

文法を楽しく!!

「よう」(1)

今回から「ようだ」「ように」「ような」として使われる「よう」について勉強します。まず、次の詩を読んで「よう」がいくつあるか見つけてください。(これは私が小学生の時に書いた詩に、手を入れたものです。)

夜道を一人で歩いていた。
うしろから誰かがつけてくるような気がする。

ピタピタピタ・・・。

私が速く歩くと、後ろの人も速く歩く。
ゆっくり歩くと、後ろもゆっくり歩く。

誰だろう。

男の人のようだ。こわい・・・。

後ろを振り返って、ついでこないように言おうか。

それもできない。

こんなことにならないように、もう少し早く帰宅すればよかった。

母が言ったように、早く帰ればよかった。

・・・もう少しで家だ。何も起こらないように祈る。

あ、家に着いた。

家が天国のように見える。ここまで来れば安心だ。

後ろを振り返ってみる。

誰もいない・・・。

なあんだ、自分の足音だったのだ。

(蛇足ですが、この詩は「こわい気持ちがよく出ている」と言っています、先生にほめられました。)



さて、この詩の中には「よう」が7つ出てきます。意味用法の似ているものを出てきた順に並べると、次のようになります。

- うしろから誰かがつけてくるような気がする。(推量)
- 男の人のようだ。(推量)
- ついでこないように言おうか。(指示・命令)
- 何も起こらないように祈る。(祈願・願望)
- こんなことにならないように、もう少し早く帰宅すればよかった。(目的(結果))
- 母が言ったように、早く帰ればよかった。(例示)
- 家が天国のように見える。(たとえ(比喩・比況)*1)

意味用法としては、a bは頭の中でそうじゃないかと考える推量、cは「～ように言う」の形での指示や命令、dは願望・祈りを表しています。eは「～ように」が目的(結果)を表し、「こんなこわいことにならないために」という意味を、fは母が言ったことを例として示しています。最後のgは、家を天国にたとえている比喩・比況の「よう」になります。

以上にいくつか他の重要な意味用法ものを加え、まとめると、次のようになります。

意味用法	主な形	「よう」の前に来る語
1 推量	ようだ ように思う/ように感じる ような気がする/ような感じがする	動詞*2の普通形 イ形容詞(い/かった/くない/くなかった) ナ形容詞(な/だった/じゃない/じゃなかった) 名詞+の/だった/じゃない/めいし
2 たとえ(比喩・比況)	ようだ ように思う/ように感じる ような気がする/ような感じがする	動詞の普通形 名詞+の/だった/じゃない/じゃなかった
3 指示・命令	ように言う/ように言ってください	動詞の普通形
4 祈願・願望	ように祈る/ように願う	動詞の普通形
5 変化	よくなる	動詞の普通形
6 努力・勧告	ようにする/ようにしてください	動詞の普通形
7 目的(結果)	ように～	動詞の普通形
8 例示	ように～ ような名詞2に/を/は～etc.	動詞の普通形*3 名詞1+の*3
9 前置き	ように～	動詞の普通形 ～の*4

(動詞の普通形は「～る/～た/～ない/～なかった」を指す。また、「じゃない/じゃなかった」は「ではない/ではなかった」にも置き換えられる。)

表の順序に従って、今回「よう」(1)では「推量」と「たとえ(比喩・比況)」の「ようだ」について考えます。

1. 「推量」の「ようだ」について

1本の木にピンクの花が咲いています。それを見てあなたは、はっきり自信はないが、形や色、そして季節が春であることなどを考えて、「たぶん桜の花だろう」と想像します。この想像が「推量」と呼ばれるもので、日本語にはいろいろな言い方があります。

- (1) これは桜の花だと思う。
- (2) これは桜の花だろう。
- (3) これは桜の花にちがいない。
- (4) これは桜の花かもしれない。
- (5) これは桜の花のようだ。

(1)～(5)は、「これは桜の花だ。」という断定的な言い方をしないで、相手に婉曲にやわらかく伝える場合にも使われます。(1)～(4)が話し手の主観に頼っているのに対して、(5)の「ようだ」は、もう少し客観的な情報

(花の形、色、匂い、自分の過去の記憶など)に頼って、判断しています。

「桜の花のようだ」は「ようだ」が名詞につながった例ですが、動詞の場合は、「ようだ」の前に普通形が来ます。

- (6) 桜の花が咲いたようですね。
- (7) 桜の花はまだ咲かないようだ。
- (8) 桜の花はもう散ってしまったようだ。

動詞の例をもう一つ挙げましょう。あなたは朝起きた時、頭痛がしました。少し寒気もします。そんな時、あなたはと言うでしょう。

- (9) 風邪を引いたかもしれない。
- (10) 風邪を引いたのかな。
- (11) 風邪を引いたにちがいない。
- (12) 風邪を引いたようだ。
- (13) 風邪を引いたらしい。

(13)の「らしい」は、「彼は今日は仕事を休むらしい」のような伝聞的な推量を表しますが、「ようだ」と同じように、自分の体の症状に対する推量にも使うことができます。



「ようだ」は多くの場合、「ように思う／ように感じる／ような気がする／ような感じがする」と言うこともできます。

- (14) 風邪を引いたように思う／感じる。
- (15) 風邪を引いたような気／感じがする。

これらは「ようだ」とほぼ同じ意味を表しますが、「ように感じる」「ような気／感じがする」は「ように思う」よりは漠然とした感覚が伴います。

2. 「たとえ(比喩・比況)」の「ようだ」について

日本で桜を見たあなたが、自分の国でピンクの花が咲いているのを見たとき、花の名前は分かりませんが、次のように言いました。

「きれいだな。日本の桜の花のようだ。」

この「(日本の)桜の花のようだ」は、本当は桜の花じゃないけれど、「桜の花に似ている」という意味になります。

このように実際はそうではないけれど、何かにたとえて言う時に「ようだ」が使われます。

- (16) これは日本の桜の花のようだ。
- (17) これは日本の桜の花に似ている。
- (18) これは日本の桜の花そっくりです。
- (19) これは日本の桜の花みたいだ。

(19)の「みたいだ」は「ようだ」より話しことば的な言い方で、推量の意味としても使われますが、ここでは「たとえ(比喩・比況)」を表しています。カジュアルな会話で用いられ、特に女性は「だ」を省略することが多いようです。

- (20) このプラスチックのハンバーグは本物みたい。
- (21) オーディションに受かるなんて夢みたい。

次の(22)～(23)は「ようだ」「みたいだ」に動詞につながった例ですが、「たとえ(比喩・比況)」を表す「ようだ」も、(24)(25)のように、「ように思う／感じる」「ような気／感じがする」と言うこともできます。

- (22) 夢を見ているようです。
- (23) 夢を見ているみたいです。
- (24) 夢を見ているように思う／感じる。
- (25) 夢を見ているような気／感じがします。

注

- *1: 比喩・比況とも「一つの事物を他の事物にたとえること」を指します。「～ようだ」「～みたいだ」を用いる「たとえ」を特に比況と呼びますが、本文では比喩＝比況ととらえています。
- *2: ここでは「動詞」の中に補助動詞「ている・である・てしまう etc.」などを含めます。
- *3: 参考のために、「例示」の例文を挙げます。
(26) 私が言うようにやってください。
(27) あなたのようない人には会ったことがない。
名詞1+の 名詞2
- *4: 参考のために、「前置き」の例文を挙げます。
(28) 皆さんご存じのように、富士山は世界文化遺産に登録されました。

このコーナーの担当者: 市川保子(日本語国際センター客員講師)

このコーナーについてご感想やご質問があれば送ってください。



本ばこ

ほん

一新刊教材・図書紹介一

しん かん きょうざい と しょしょうかい

「できるようになりたい」ことが「できるようになる」日本語教材

『WEEKLY』日本語で話す6週間

にほんご ほな しゅうかん

監修：加藤早苗

著者：秋山信子・坂本舞

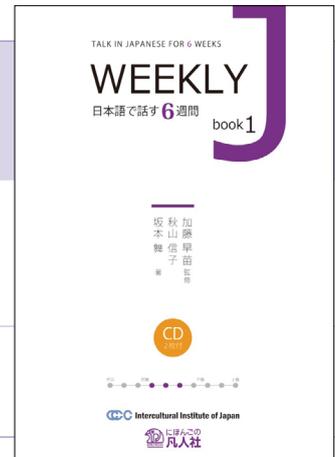
出版社：凡人社

URL: <http://www.bonjinsha.com/>

発行年月：2012年4月

ISBN: 9784893588159

判型・頁数：B5判 154頁 定価：2,100円(税込み)



みなさんは“CEFR”¹をご存じですか。CEFRとは、“Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment”の略で、日本語では「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」と訳されています。EUに加盟するヨーロッパ各国は、この参照枠に従って外国語教育のシラバス、テスト、教材などを作っています。レベルを表すものさしや言語学習に対する考え方を共有していれば、言語が違っても学習環境が違っていても、教師も学習者も同じ情報を共有することができます。この利便性が注目され、今日、CEFRはヨーロッパ以外の国でも広く使われるようになってきました。

本教材は、CEFRの考え方を基本にして作られた日本語テキストです。CEFRのA2～B1レベルの日本語学習者が、自然な日本語を使ってコミュニケーションができるようになるよう工夫がされています。全部で30ユニットから成り、各ユニットに「子どものときのことについて話す」「相手に苦情、文句を言う」などのトピックがあります。ひとつのユニットの学習時間の目安は120分で、タイトルのとおり、6週間ですべてのトピックの学習が完了します。出版社のウェブサイトには、語彙リストや教師用資料が提供されています。

▽つまずきから始まる日本語学習

本教材の大きな特徴は、ユニットの目標を学習者にまず意識させ、その目標を達成するための手段として文型や語彙を学ぶように作られている点です。各ユニットは、次のような流れで進みます。

【答えてみよう】そのトピックについて、その時点の日本語レベルで言えることを言ってみます。学習者は、言いたいことが思うように言えず、もどかしい気持ちになるはず。このつまずきを利用して、「できるようになりたい」ことを目標として自覚させます。

【聞いてみよう】モデル会話を聞き、自分が言いたかったこととはどのような文型・語彙を使って表現されているのか聞き取ります。

【言葉を増やそう】【文型】【会話の達人】【練習しよう】そのトピックについて話すために必要な「語彙」「文型や表現」「会話のテクニック」について学び、練習します。ここでは話す練習のほか、

【Training】のページを利用して書く練習も行い、正確さの定着も図ります。

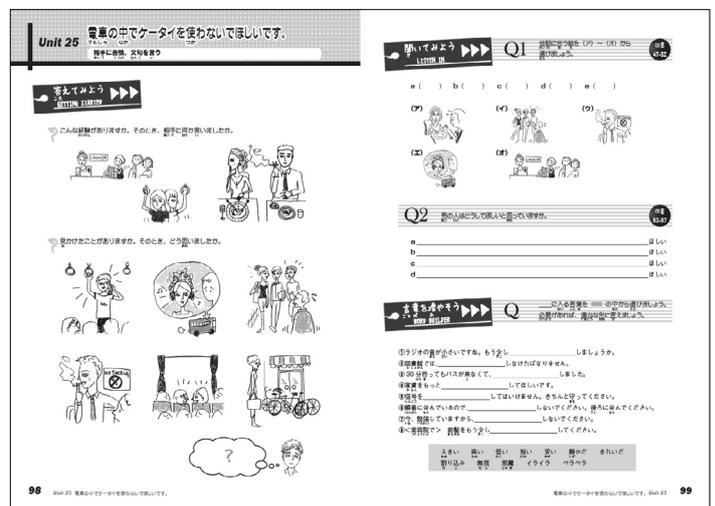
【使ってみよう】「できるようになりたい」ことが「できるようになった」か、習ったことを使いながら自分自身にひきつけて話してみます。この時点で、学習者は、「答えてみよう」で言えなかったことが言えるようになった!と、学習の成果が実感できるはず。学習の成果が実感できるはず。学習の成果が実感できるはず。

▽教室の外で実際に使ってみよう

話をCEFRに戻します。CEFRでは、人間は「具体的な行動を通して種々の課題と取り組みながら、言語能力を獲得していく」と言っています。本教材を使って教室での学習が終わったら、今度は是非、外で実際に使ってみてください。学んだ成果をより一層感じられると思います。

¹国際交流基金が開発したJF日本語教育スタンダードもCEFRを参考にしています。レベルイメージなどはこちらで確認してください。

<http://jfstandard.jp/>



このコーナーの担当者：押尾 和美 / 日本語国際センター専任講師

おし お かず み にほんご ことくざい せんにとこうし



本ばこ

ほん

— 新刊教材・図書紹介 —

しん かん きょうざい と しょしょうかい

上質の「読み」素材集

『中上級学習者向け日本語教材 日本文化を読む』

ちゅうじょうきゅうがくしゅうしゃむ にほんごきょうざい にほんぶんかよ

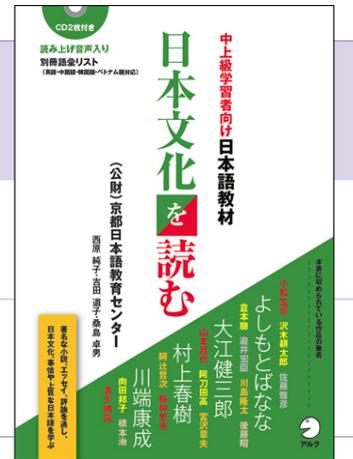
編著者：公益財団法人 京都日本語教育センター

出版社：アルク

URL: <http://www.alc.co.jp/>

発行年月：2012年10月

ISBN: 978-4757422315 判型・頁数：B5判 112頁+CD2枚 定価：2,520円(税込み)



▽「読解」から「読書」へ

この教材は、以前このコーナーで取り上げた『上級学習者向け日本語教材 日本文化を読む』¹⁾の姉妹編で、中上級学習者のために編纂されました。

「中上級」と謳っているだけに、1課あたりの文章の長さが前作より短く(1000~2000字程度)、内容もより身近で、文章構造もやさしくなっています。

本書では、前作同様、語学的理解よりも、作品内容の「読み」を通じて、学習者に作品から導き出されることなどを考えさせることをねらっているようです。

よしもとばなな、村上春樹といった人気作家、また、大江健三郎、川端康成といったノーベル賞作家の小説やエッセイをはじめ、ノンフィクション作家の沢木耕太郎、脚本家の倉本總や向田邦子、そして民族学者の梅棹忠夫や医学者の川島隆太など、時代を超えて、多彩な分野からの文章が集められています。

収録されている文章は、だいたい、文学的文章というジャンルでくることができると思います。そこからは、質の高い素材を学習者に提供し、学習者は文章を味わいながら、日本語を「読む」力を磨いていくというねらいが見えてきます。

日本人の行動・価値観を垣間見せるエピソードを取り上げていること、そして、余韻を味わい、行間を読む訓練もふくまれていることから考えると、「日本文化を読む」というのは適切なタイトルだと思われまます。

▽本書の構成

本書は、20課で構成されていて、そのうち2課分は古典(竹取物語・枕草子)の文章が収録されています。

課の順番は難易度の順ではないので、どこからでも始めることができます。

できます。

前作に倣い、本文はたて書きで印刷され、本文の下の欄には、語彙・表現、内容に関する問い、まとめの問題が載っています(別冊解答付き)。本文の最後には、出典と著者紹介も掲載され、本文の読み上げCDと語彙リスト(英語・中国語・韓国語・ベトナム語訳付き)も付いています。

本書は、基本的な日本語構造を学習し、読解力の基礎を身につけた学習者が、上質の文章に接してゆく際の手引きとして、編纂されたということです。前作の上級編への橋渡しとしても活用できると思われまます。

¹⁾バックナンバー 第63号 (http://www.jpff.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/bookshelf/pdf/nkt63_p11_13.pdf) 3ページ目に収められています。

課	題名	著者	頁
1	中身当てクイズ	佐藤雅彦	8
2	お母さん みんなで食卓を囲む幸せ	よしもとばなな	12
3	やっぱり敬語が必要なわけ	橋本治	16
4	シンプル	山本昌代	20
5	フツケ	梅棹忠夫	24
6	脳のはたらきを目で見てみよう	川島隆太	26
7	大根を半分	沢木耕太郎	32
8	隣人訴訟事件	後藤昭	38
9	わざわざ書く	宮沢章夫	42
10	東京スカイツリーの秘密	瀬井宏臣	48
11	天井裏	村上春樹	54
12	吟味された言葉	大江健三郎	58
13	新社会人劇場	倉本聰	62
14	三十分と三分	阿刀田高	66
15	さかさに地図をながめてこらん	小笠原左京	72
16	雨傘	川端康成	76
17	字のないはがき	向田邦子	80
18	「春」の息吹	阿辻哲次	86
19	蓬菜の玉の枝	竹取物語	90
20	枕草子	清少納言	92



本ばこ

ほん

— 新刊教材・図書紹介 —

しん かん きょうざい と しよしょう かい

学習のステップを丁寧に示した参考書兼ワークブック

『論文作成のための文章力向上プログラム』

ろん ぶん さく せい ぶん しょう りょく とう じょう

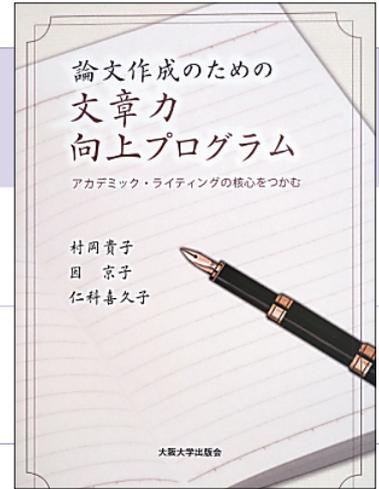
編著者：村岡貴子・因京子・仁科喜久子

出版社：大阪大学出版会

URL: <http://www.osaka-up.or.jp/index.html> 発行年月：2013年4月

ISBN: 978-4-87259-416-4 C3080 判型・頁数：B5判・並製・176頁(別冊解答40頁)

定価：本体2800円+税



▽「本物の力」をじっくり養う

本書は論文でよく使う表現の練習や、参考になる例文が集められた「外国人学習者のための参考書」ではありません。この本に示されているのは、研究活動に関わるさまざまな文章と、それを使った豊富なタスクです。ステップを追って示されたタスクを通して、論文・要旨・メール・申請書など研究活動に関わる文章について、時間をかけて観察したり話し合ったりします。つまり「論文執筆力を身につけるためには、正解をできるだけ早く覚えるのではなく、自分自身で考えることが近道だ」というのが本書の立場です。論文執筆の力をつけた人が活用することはもちろん、論文指導を担当する教師が、本書のタスクの挙げ方を授業活動へのヒントにすることもできます。

▽研究活動に関わる多様なテーマとタスク

本書では、全10章のうちの最初の3章で次のことを扱っています。自分自身はどのように書くことを学んできたかを振り返ったり、文章を作成するということがどのような目的を持ち、何が重要となるのかを確認したりすることです。

続く4つの章では、文章の分析や比較をした上で、問題点を指摘し、今度は自分で修正案を作成し、それを別の修正案と比較する、更に他の人と議論する、といった活動を行います。解答例は、解説とともに詳しく挙がっています。

残る3つの章では、研究要旨・活動報告・研究目的の依頼文・就職活動などでの自己紹介文が扱われています。また、投稿前の論文チェックの重要性や、査読とは何かといった、論文執筆に関わる大事な情報はコラムとして挙げられています。

文章力を鍛えるには、長い道のりを自分の足で走っていかねばなりません。伴走者を必要とする人にとって、本書は頼れる味方になるはずです。

目次	
ま じ	
第1章	「書く主体」である自分とは
第2章	学習・研究のための「書く」活動について知る
第3章	学習を自己管理し、学習方法を探索する
第4章	文章を読んで問題点を探す
第5章	文章の目的から構成を考える
第6章	論理の一貫性を考える
第7章	的確な表現を追究する
第8章	研究の要旨を書く
第9章	活動報告を書く
第10章	未知の人やコミュニティに「自分」を説明する
Column	
① 教科書と論文ではスタイルが違う!	
② 文を寝かせる? 熟成法	
③ 作文支援ツール「なつめ」を利用した的確な語を選択する	
④ 「敬意」の表現を回避する方法	
⑤ 投稿前に論文をチェックする	
⑥ 論文の「査読」って何?	

4.1 事実の分析・意義づけの欠けた文章

■ タスク ① 分析

(1) 表本文1-10の文章は、「災害看護学の教育」のワークショップ（読研会）を行った後に書かれた報告書の一部です。「災害看護学」とは大型の自然災害や事故によって多数の死者が出る事態に対応する看護学の一分野で、この読研会は「災害看護学教育」の重要性についての理解がまだ進んでいない地域の教員を対象に行われました。表本文1-10は研修の成果を説明する部分です。原文である1-10と、それを修正した表本文1-10を比較してください。二つの文章を比べると、修正によって表本文1-10の中のゴツゴツとした部分が付け加えられたことがわかります。この修正にはどのような効果があるでしょうか。表4-1の下の(a)か(b)に述べた効果があるかどうか、どの効果があるかを考えて、表4-1に当てはまる効果の記号を書き入れてください。

表本文1-8: 活動報告
災害看護教育ワークショップ実施経過報告書(成果の説明の部分)

今回行ったワークショップを通じて、参加した教員が災害看護学教育の意義や必要性を理解し、そのために必要なワークショップ、知識、技術を習得し、さらに、参加者同士で交流を通じて、参加者の所属する各大学間に災害看護学導入のためのネットワークが形成された。今後、協議してカリキュラムや教材を開発していくものと期待される。

表本文1-9: 活動報告
災害看護教育ワークショップ実施経過報告書(成果の説明の部分)

ワークショップの成果は次の2点である。第1に、参加した教員が災害看護学教育の重要性や必要性を理解し、そのために必要なワークショップ、知識、技術を習得し、さらに、参加者同士で交流を通じて、参加者の所属する各大学間に災害看護学導入のためのネットワークが形成され、災害看護学を看護教育の必須科目として確立していく基盤が作られた。今後、参加者が中心となった協働作業によりカリキュラムや教材が開発されると期待される。

表4-1 付加された記述の効果

付加された記述	効果(複数選択可)
ワークショップの成果は次の2点である。	
第1に、	
この教育の導入・推進に	
災害看護学を教育する技能を習得した。	
第2に、	
災害看護学を看護教育の必須科目として確立していく基盤が作られた。	
参加者が中心となった	

〈効果〉

(a) 当該部分の全体構造における位置づけやその後の展開が明確になる。
(b) 事象間のより明確になる。
(c) 事実に示す意義が明確になる。

このコーナーの担当者：長坂 水晶 / 日本語国際センター専任講師



本ばこ

ほん

一新刊教材・図書紹介

しん かん きょうざい と しよしょうかい

漢字学習を通して、「できる」コミュニケーションをつみ重ねる

『漢字たまご 初中級』

監修：嶋田和子

著者：有山優樹・落合知春・立原雅子・林英子・山口知才子

出版社：凡人社

URL: <http://www.bonjinsha.com/>

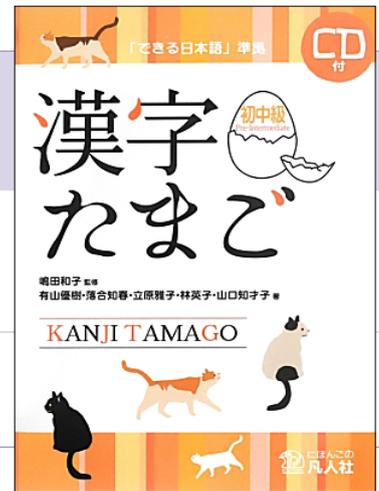
発行年月：2013年4月

ISBN: 9784893588326

判型・頁数：B5判 191頁

CD1枚付き

定価：1,680円(税込み)



漢字の学習といえば、書いて覚えてまた書いて、それぞれが静かに学習する、そんなイメージはないでしょうか。本書は、そのような漢字学習の考え方を越え、漢字学習を中心にコミュニケーションの練習もできる漢字の教科書です。

▽漢字学習のための「三つの柱」

本書の漢字学習は、「三つの柱」をもとに組み立てられています。一つ目の柱は、その課の漢字を勉強したら何ができるようになるかが示されていることです。「スーパーの広告などから、肉の種類がわかり、読むことができる」のように、各課に漢字学習を通じた実際のコミュニケーション上の目標が示されています。二つ目の柱は、「日常生活場面の活用」です。各課のタイトルは「第8課引越し」「第13課学校で」のように、その課で学ぶ漢字が日常生活のどのような場面を使うのかわかるようになっていきます。また、「学校の掲示板」「アパート探しの物件情報」「ブログ」など、日常生活の中での「漢字との接触場面」がたくさん取り上げられています。三つ目の柱は、「漢字学習ストラテジー」です。漢字の部首をはめ込むクイズや、音読み・訓読みを利用した漢字パズルが各課に設定され、クイズやパズルを解くことを通して「漢字には共通のパーツがある」などの漢字学習ストラテジーに気づくことができるようになっていきます。

▽漢字項目は「三つのグループ」に

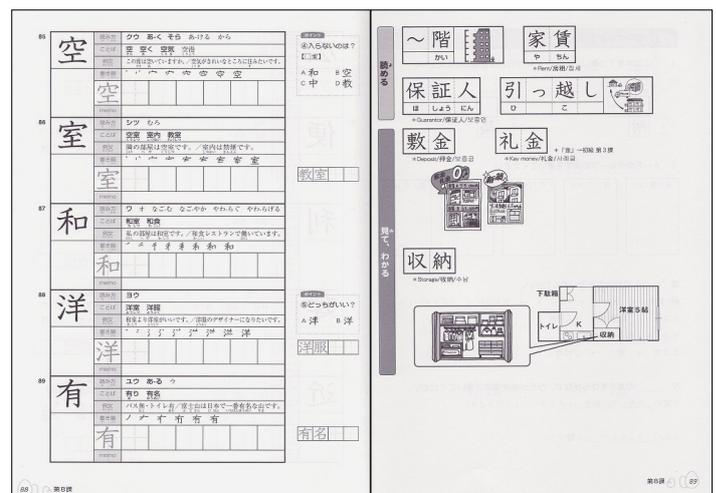
各課の学習漢字をA「読んで書く必要がある漢字」、B「読めればいい漢字」、C「サインとしてわかればいい漢字」の三つのグループに分けているところも本書の特徴です。学習漢字を三つに分けて考えることで、学習する漢字が多すぎてやる気を失うことがないように配慮されています。

本書は2012年に出版された初級版に続く初中級版です。初級版

で162字、初中級版では164字の漢字が学べます。また、本書は『できる日本語』¹という総合日本語教科書の準拠教材です。ただし、本書の漢字学習を通してでも十分にコミュニケーションが「できる」ようになるための活動が可能です。この教科書を使うことで、静かなイメージのある漢字の授業が、学習者の声であふれるわいわいにぎやかなものになるのではないのでしょうか。

¹ 2011年5月27日更新の「本ばこ」をご覧ください。

(<http://www.jpff.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/bookshelf/201105.html>)





本ばこ

ほん

一新刊教材・図書紹介

しん かん きょうざい と しよしょう かい

JF 日本語教育スタンダード準拠の日本語コースブック
『まるごと 日本のことばと文化 入門 A1』

<かつどう><りかい>

編著者：独立行政法人国際交流基金 来嶋洋美、柴原智代、八田直美
出版社：三修社 (https://www.sanshusha.co.jp/np/index.do)

発行年月：<かつどう><りかい> 2013年10月
ISBN：<かつどう> 978-4-384-05752-9 C0081、<りかい> 978-4-384-05753-9 C0081

判型・頁数・定価：<かつどう> A4判 146頁 1,500円(税別)、<りかい> A4判 198頁 1,700円(税別)

公式ホームページ：http://marugoto.org/



▽生き生きとした授業に

教室活動の特徴としては音声教材が多用されていることがあります。<かつどう>は類似した流れを持つ4つの会話を何度も聞いてからペアで会話練習。また<りかい>は文型練習に会話の聴解を取り入れたり、答え合わせに音声を使ったりします。本書の会話は場面や登場人物の設定がおもしろく、演技や楽しい背景音楽などを取り入れて聞きやすく作られています。専用のウェブサイト※からすべての会話音声教材を無料でダウンロードできるのもうれしい点です。

音声教材のほか、教師用リソースも提供されています。さらに、学習支援サイトも充実。日本語と日本文化を学ぶ楽しさを「まるごと」感じられるこの新しい教科書で、これからの日本語の授業をさらに生き生きとしたものにしてください。

※『まるごと 日本のことばと文化』公式ホームページ <http://marugoto.org/>
関連サイトへのリンクもあります



本書は、国際交流基金が相互理解のための日本語を理念として開発したJF日本語教育スタンダード（以下、JFスタンダード）準拠の日本語コースブックです。特に海外の成人学習者にとっての使いやすさを視野に入れて、会話場面の設定や内容、構成に様々な工夫がなされています。「入門A1」はJFスタンダードのレベル設定の中でいちばんやさしいレベル。けれども、1時間目の授業からシンプルでも役に立つ、楽しい日本語学習を展開します。さらに、ことばと文化は切り離さずにいっしょに学ぶという考えから、異文化理解の視点を取り入れていることも本書の特徴です。日本の生活文化を通して自文化や自分自身を振り返り、クラスメイトと話合います。全員フルカラーの写真やイラストはことばと文化の学習を効果的に導くことでしよう。

▽<かつどう>と<りかい>

本書は<かつどう>と<りかい>の2冊があります。<かつどう>は日本語を運用して行うコミュニケーション言語活動(Can-do)ができるようになることを、<りかい>は言語能力（文字、語彙、文法、文型などの言語知識）を養うことを学習目標にしています。両書はトピックや会話場面が共通しているので、学習ニーズに合わせて、単独使用のみならず併用することも可能です。

課の構成は以下のようになっています。

<かつどう>	<りかい>
①トピックと学習目標(Can-do)の確認	①トピックと学習目標(基本文)の確認
②聞いて言ひましょう 語彙と場面の導入	②勉強する前に 課の内容へ導入するための質問
③聞きましよう 会話モデルとそのバリエーションの聴解(内容とともによく使われる表現に気づくことが大切)	③文字とことば 文字と語彙の練習
④ペアで話しましよう モデル会話の流れに沿って自分のことを話す	④会話と文法 モデル会話提示、文の構造説明、文脈化された文法と文型の練習
⑤読みましよう/⑥書きましよう 現実のコミュニケーションに役立つ簡単なタスク	⑤読解 トピックに関連した短い文のコミュニケーション的な読み
⑦生活と文化 日本の生活や文化について写真を通して知り、クラスで話し合う	⑥作文 トピックに関連した短いモデル文をなぞりがきしてから、部分的に自分のことばに置きかえて書く
⑧Can-doチェック その日の学習を3段階で自己評価	⑦日本語チェック その日の学習を3段階で自己評価

このコーナーの担当者：来嶋 洋美 / 日本語国際センター専任講師